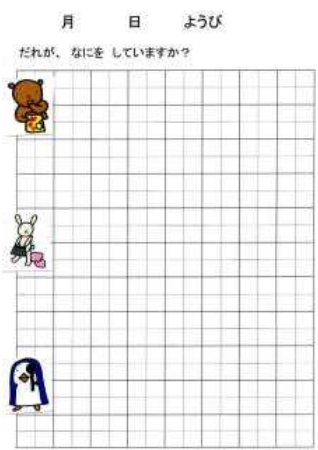


教材事例書式

教材教具名 だれなにれんしゅうちょう	教科(国語)	
<p>教材教具写真</p> 	<p>作り方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. エクセルで児童実態に合わせた書字枠を作る。 2. 本校にあるパソコンカット集から活用できる絵を収集する。 3. コンタクトシート印刷をする。 4. 3の裏面に両面テープを貼り1カットごとに切ってシールにし、教材としての使用意図に合わせて分類整理しておく。 (収集段階でフォルダ分類するとさらに楽) 5. 1を印刷したものに課題に応じてカットを貼り付ける。 	
<p>教材教具の概略(ねらいと使い方) 発達段階や教科上のどの課題で、どのように使ったか等</p>		
<ol style="list-style-type: none"> 1 ねらい (絵の) 情景をできるだけ詳しく文で表現させる。助詞の使い方でも有効。 2 発達段階 本校発達段階別指導内容の期: 文字ことばを獲得する時期 全国知的障害養護学校長会校長会試案3 具体的内容例: 「3 - 2 3 簡単な語句や短い文を、平仮名で書く」 3 使い方 繰り返し学習で習熟することを意図している。 「だれが、なにを、していますか?」と尋ね、絵を話し言葉で説明させる。 書かせる。 段階に応じて、「誰が・何を・ している」を一つずつに分けて書くようにしたり、助詞の部分は予め書き入れておいたりする。 書いたものを読ませる。 評価し、出来具合から次の課題のカットを選んで貼り付けて提示する。 		
<p>児童生徒の反応や教材の評価 使ってみての感想・改良発展のアイデア等(次に利用する方のために)</p>		
<p>教材としてはありふれたものである。習熟するための課題に応じた反復学習用教材をもっともお手軽に自分が本校で作れるものはこの方法だった。カットを予め貼らないアナログ的やり方により、評価に即した次の課題をその場で選んで出せる。授業でやり方がわかった後に家庭学習に切り替えた。</p> <p>よいところ: カットは「伝える」ものであるため余分なものがなくわかりやすい。カラー印刷できてかわいい物好きの児童は関心を持って学習できる。必要なものを量産できる。</p> <p>バリエーション: カットではなく写真集も人物の動きを的確に表しているものがあるので、その方が適している児童生徒もいると思う。</p>		